

令和2年度 基本施策評価シート

作成日 令和2年6月2日

基本施策	G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		221ページ ~ 222ページ	
基本施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子
関係課名	市立図書館、恐竜博物館準備室		

基本施策の評価

<p>Cc 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている</p> <p>判断理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策の成果指標3つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため、「C」とする。 個別施策の成果指標7つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の2つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。 <p>【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】</p> <p>(1) 公民館等の生涯学習施設の利用者は、前年度より241千人の減であった。年度の終盤に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、利用団体の活動の自粛及び施設利用の新規予約受付を中止したことが主な要因と考えられる。公民館講座参加者のアンケートでは、満足した参加者の割合は97%台と高い。また、市民意識調査においても、自主的な学習活動に取り組んでいる人の割合、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている人の割合はともに増加している。</p> <p>(2) 市立図書館の利用者数は、前年度より21,000人余減少した。年度の終盤に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として主催事業の中止や施設利用の新規予約受付を中止したことが主な要因と考えられる。また、図書館での調べ物の楽しさを体験した参加者は、前年度より約35%減少した。図書館で開催するイベントと、閲覧室での展示等を連携させ、閲覧室に入る取組みを実施した。また、「子ども読書活動推進計画」に基づく取組みとして、図書館内でのおはなし会や出張お話し会を実施した。このほかに、調べ物の楽しさを体験し、参加者を増やす取組みを実施した。</p> <p>(3) JR長崎駅かもめ広場にて恐竜の全身骨格のレプリカを展示するとともに、会場内で恐竜に関する講演会を開催したことで、多くの市民が恐竜化石について興味関心を持つことにつながった。また、恐竜化石をテーマとしたリーフレットを市内小・中学生に配布したことにより、長崎の恐竜化石に対する学習機会創出のきっかけとなった。※配布数：小学校(6年生) 3,800部、中学校(1年生) 3,160部</p> <p>(4) 生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度より22人(11.8%)減少したが、地域の学習活動等への延べボランティア数は66人(2.2%)増加した。登録者数の減少は学校・地域支援のための民間のボランティア団体が解散したことが主な要因である。</p>
--

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	38.7% (26年度)	↑ 目標値	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0
		実績値	35.9	37.2	36.8	38.4	
		達成率	92.1%	93.0%	89.8%	91.4%	
生涯学習施設等の利用者数	2,740千人 (26年度)	↑ 目標値	2,758.0	2,774.0	2,790.0	2,806.0	2,822.0
		実績値	2,652.0	2,649.0	2,739.0	2,498.0	
		達成率	96.2%	95.5%	98.2%	89.0%	
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	25.6% (27年度)	↑ 目標値	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
		実績値	26.3	24.6	23.4	33.9	
		達成率	101.2%	91.1%	83.6%	116.9%	

今後の取組方針

- (1)市民のニーズに応じた学習環境の整備、学習機会の充実を図る方法として、特に、公民館、科学館、図書館、ふれあいセンター、さらに、建設中の恐竜博物館と様々な部分で横断的な連携を行い、市民が身近に感じることができる生涯学習施設になるよう努める。また、新型コロナウイルス感染症への対応として、各施設のガイドラインに基づき感染予防対策を確実にしながら、市民の学習機会の充実に引き続き取り組む。
- (2)行政、地域団体などと連携して、地域課題を題材にした魅力的な講座等を企画し、講座を通じた仲間づくりを進める。主体的にまちづくりに参画していこうとする意欲を高めるため、講座で学んだことを生かせる機会や場所についても情報提供を行い、個人の学びを地域に還元することによって、活力ある地域社会づくりの促進を図る。
- (3)公民館等の講座に関しては、参加者が固定化している傾向があるため、平日に参加することができない受講者のために土日、休日、夜間などに講座を実施することを検討し、これまで公民館等を利用していない市民への利用促進を図る。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Cc」については、所管評価のとおり。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で公民館や図書館の利用者数が減少したとある。公民館などの学習の場は大事なところだと思うので何らかの形で機会を提供することを検討し、充実させていく必要があると思う。問題点に記載しているので、今後の取組方針に、ウイズコロナの取組みを記載すべきではないか。

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-1 学習に取り組める場と機会の充実を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	身近な生涯学習施設で集い・交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題等を学んでいる。	
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子

令和元年度の取組概要

- ①学習開放事業
 ・地域における生涯学習・情報活動の拠点として、学校14校(小学校8校、中学校6校)の会議室等を開放した。
- ②講座開設の取組み
 ・地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開催するほか、社会生活で直面する問題を解決するための講座を実施し、住民の教養の向上、情操の育成を図った。
 ・町立公民館、ふれあいセンターにおいても地域課題等について、その解決のための自主的学習をすすめるために講座に対する謝礼金や講師紹介等の支援を行った。
- ③図書館の運営
 ・市民や地域に役立つ情報拠点として、図書資料の系統的な収集、整理、貸出を行うほか、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」、「はじめまして絵本事業」、「図書館を使った調べる学習コンクール」など各種事業を実施した。
 例えば、「図書館を使った調べる学習コンクール」は、図書館にある豊富な資料を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を再認識し、今後の図書館の利用促進を図るもので、令和元年度は168人の応募があった。
- ④科学館の運営
 ・科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資するため、科学について体験を通して楽しく学習できる科学教室や、より多くの子どもたちに科学の不思議さや面白さを学ぶ機会を提供するため出前サイエンス教室を実施するなどの各種事業を行った。
- ⑤恐竜化石等研究調査
 ・長崎半島にある白亜紀後期の三ツ瀬層(約8100万年前)から恐竜・翼竜等の化石が発見され、更に化石発見の可能性が高いことから、平成24年度から福井県立恐竜博物館と共同調査を実施しているところであり、多くの貴重な化石を発掘した。
 ・JR長崎駅かもめ広場において、恐竜の全身骨格のレプリカを展示するとともに、会場内で恐竜に関する講演会を開催した(9月18日～9月23日)。
 ・若い世代に長崎の恐竜について興味を持ってもらうことを目的とし、小学校(6年生)、中学校(1年生)へ恐竜化石リーフレットを配布した。
- ⑥恐竜博物館の建設
 ・国内で初めて発見されたティラノサウルス科大型種の化石など、他では見られない長崎市産の恐竜を中核テーマとした特色のある博物館をめざして、博物館建設の基本・実施設計を行った。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
公民館等の利用者数	1,331千人 (26年度)	↑ 目標値	1,360	1,385	1,410	1,435	1,460
		実績値	1,339	1,333	1,357	1,207	
		達成率	98.5%	96.2%	96.2%	84.1%	
公民館等の講座や教室の参加者数	92,145人 (26年度)	↑ 目標値	93,200	94,400	95,600	96,800	98,000
		実績値	83,116	86,829	95,995	85,830	
		達成率	89.2%	92.0%	100.4%	88.7%	
大型公民館における夜間、土日、休日に実施する公民館講座や教室の参加者数	10,268人 (26年度)	↑ 目標値	10,500	10,800	11,100	11,400	11,700
		実績値	14,652	12,930	13,026	13,240	
		達成率	139.5%	119.7%	117.4%	116.1%	
公民館等で開催される講座の参加者のうち、満足した人の割合	93.7% (26年度)	↑ 目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
		実績値	97.6	97.3	97.8	97.9	
		達成率	102.7%	102.4%	102.9%	103.1%	
ふれあいセンター等において実施された現代的課題・地域課題講座の件数	143件 (26年度)	↑ 目標値	160	185	210	235	260
		実績値	160	182	246	205	
		達成率	100.0%	98.4%	117.1%	87.2%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①学習開放事業 ・市立学校の施設などを学校教育に支障のない範囲で、地域の人々の学習や研修の場として開放することで、14校の会議室等で延1,771回開放し23,938人が利用した。	市立学校の施設を学習や研修の場として開放することで、地域における生涯学習の活動の場が広がった。
②講座開設の取組み ・公民館講座を2,514回開催し、54,286人が参加した。 ・取組み例として、中央公民館では若い世代が公民館へ足を運ぶきっかけづくりにつなげるため、若い世代が集まる商業施設で出前講座を実施するとともに、「カズオ・イングロの世界～心のふるさと長崎」講座を行い、作家、作品と幼少期に育った故郷長崎を結ぶことをねらいとし、長崎の良さについても学びを深める機会となった。また、西公民館では、「ポッチャ」のルールをアレンジした「レクポッチャ」を活用し、地域住民、公民館利用者の健康増進及びつながりの強化につなげる講座を行うなど多様な講座を実施した。	市民の関心があるタイムリーな講座を開催することで、課題解決のきっかけづくりや地域住民の教養の向上、郷土愛の醸成につながるとともに若い世代の利用者層の開拓につながった。
③図書館の運営 ・来館者数 841,058人、貸出者数 402,763人、貸出冊数 1,349,995冊の利用があった。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施し168人の応募があった。また、学校で、調べ学習を行ったり、授業での成果をはかる一環に加えられたことで、全国コンクールで優秀賞及び奨励賞(各1作品)を受賞するなど作品の質の向上につながった。	・市民や地域に役立つ情報拠点として、主催事業の開催に合わせ関連する図書を紹介することで、貸出数や貸出冊数の増加につながった。 ・調べる学習により、子どもは主体的に学ぼうとする意欲を持ち、自分なりのテーマを追究し、「情報を活用する力」、「情報リテラシーの力」を身につけることにつながる。また、人が生涯を通じて学ぶための大きな力になることから、生涯にわたる読書習慣につなげていく。

<p>④科学館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の企画展については、科学館スタッフによる手作り企画展を開催し、企画展では過去最高の入場者数となった(入場者数 10,865人)。 ・利用者数:153,167人(展示室:45,512人、プラネタリウム:29,340人、全天周映画:2,045人、観望会:5,739人、教室等:8,180人、クラブ等:600人、講演会・イベント:61,751人) 	<p>見て触れて学習できる企画展の開催により、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。</p>
<p>⑤恐竜化石等研究調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県立恐竜博物館と共同で化石の発掘調査を行い、長崎における自然史の新しい学習資源となる248点の恐竜化石等を収集することができた。 ・恐竜化石についてのイベント、講演会及びリーフレット配布により、多くの市民が長崎の恐竜に興味関心を持つことにつながった。 <p>※リーフレット配布数</p> <p>小学校(6年生)66校 3,800部 中学校(1年生)36校 3,160部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年10月の恐竜博物館開館までに収集する化石の目標値である1,500点に対し、令和元年度までに1,373点の化石を収集している。 ・長崎で見つかった恐竜をテーマとしたイベント、講演会の実施及びリーフレットを配布したことにより、市民の興味関心が高まり、長崎の恐竜について自ら学習する機会を創出することにつながった。
<p>⑥恐竜博物館の建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にはない長崎独自のストーリーを活かした展示、化石の調査、研究、保存の様子を実際に見て学ぶことができるオープンラボ等、魅力あふれる博物館の建設に向けた基本・実施設計が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の自然史に係る新しい学習資源である恐竜化石について、市民が自ら興味を持ち、学習するための拠点となる恐竜博物館の基盤ができた。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①学習開放事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習開放事業で行われる活動の内容について、令和元年度に見直しを行ったことにより、生涯学習の活動の場としての実施校が減となる。また、生涯学習の場として、公民館、ふれあいセンターを含めた施設の適正配置、事業のあり方を検討する必要がある。 	<p>学校の会議室等は学校の運営時間外での開放となることから、利用時間が限られる。また、ふれあいセンターが整備されるなど、より利用しやすい施設が選ばれていることが要因と考えられる。</p>
<p>②講座開設の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館等において、各種講座を行っているが、参加者が固定化している傾向がある。 	<p>これまで公民館等を利用していない市民にまずは足を運んでもらうための利用促進策が不足している。</p>
<p>③図書館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館の来館者数は、前年度より21,000人余減少した。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」の参加校は、微減であったが、応募者数が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の終盤に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として主催事業の中止や施設利用の新規予約受付を中止したことが主な要因と考えられる。 ・同時期に同様の募集があり、応募が分散したと考えられる。
<p>④科学館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展などの内容が偏りがちな傾向にある。 	<p>目標年間入場者数15万人を達成するため、特別展などのイベント内容は、人気があり集客が期待できる内容になりがちなのが要因の一つと考えられる。</p>
<p>⑤恐竜化石等研究調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎の恐竜を紹介し興味をもってもらうためイベント、講演会等を行っているが、一時的な参加ではなく、恐竜博物館の開館まで自ら継続して学ぶ機会やシステムの構築まで至っていない。 	<p>イベント等に参加し恐竜に興味を持った市民が、さらに継続して学びたいと考えたとき、どこに行けば情報を得られるか一見してわかるような、固定化した情報ツールが不足していることが要因と考えられる。</p>

今後の取組方針

①学習開放事業

・施設の使用料など、公民館との均衡を図るため、施設の有料化も考慮する。また、適正配置も検討する。

②公民館の取組み

・多くの住民が仲間づくり、地域づくりを進めることができるよう公民館運営審議会等の意見を聞きながら、公民館の事業を企画する。

・公民館講座の企画内容や周知方法について、さらに工夫し市民にアピールする。

・平日(昼)に参加することができない受講者のため、市民が気軽に集まりやすい日時(土日、休日、夜間など)での講座開催、足を運びたくなる講座の把握に引き続き努める。

・ふれあいセンター及び町立公民館に対して講座の講師情報の提供や講座の企画支援などを行い、より多くの講座が実施されるよう働きかけを行う。

③図書館の運営

・親子で絵本を読むことにより、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」など各種事業に取り組む。

・「図書館を使った調べる学習コンクール」については、今後も作品の質の向上及び応募者数の増加を図るため、引き続き図書館において、調べる学習関連の講座等を実施するほか、関係部局と連携してより一層の周知を行う。

④科学館の運営

・展示室を利用した実験やイベント等、新たな事業に取り組む。

・プラネタリウムや科学実験・工作による、見て、触れて科学の不思議さを学べる取組みについて、内容をさらに充実させる。

⑤恐竜化石等研究調査

・今後も発掘調査を継続して実施し、収蔵・研究に資する化石資料の数を増やす。また、博物館の開館までの間、市民の恐竜化石に対する機運を高めるよう、イベント、講演会の開催及び情報発信の充実を図る。

⑥恐竜博物館の建設

・長崎の自然史について、市民の学びの拠点となる恐竜博物館の建設を進める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	<p>(事業名) 学校校舎開放関連運営費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民に学校の会議室等を学校教育に支障のない範囲で地域に開放することにより、学習の機会を図る。</p> <p>(事業概要) 市立小学校8校、中学校6校(令和2年度から事業の見直しにより小学校3校のみ)の会議室等を学校の運営時間外に市民に開放する。(平日:夜間。土・日・祝日:終日) 「長崎市立学校の施設の開放に関する規則」により、運営を各学校学習開放運営協議会へ委託している。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	29,100 人	28,870 人
		実績値	28,305 人	23,938 人
		達成率	97.3 %	82.9 %
		決算(見込)額	1,628,161 円	1,562,021 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値28,617人(平成29年度)の2%増を目標値とした。</p>	<p>利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値28,305人(平成30年度)の2%増を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 開放回数 1,827回 利用者数 28,305人 登録団体 90団体</p> <p>(成果・課題等) 運営協議会の数は平成29年度と同じ14校であり、利用者数は312人減少しているが、開放回数は40回増えている。 開放学校によっては、利用団体が限られており、学校で生涯学習の場として教室等を開放していることへの認知度低さが課題である。 学習機会の充実を図るため、今後も事業の周知啓発に努めるとともに、他事業との連携など事業の在り方についても検討していく。</p>	<p>(取組実績) 開放回数 1,711回 利用者数 23,938人 登録団体 117団体</p> <p>(成果・課題等) 運営協議会の数は平成30年度と同じ14校であり、利用団体は117団体と増加している。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、利用団体の活動の自粛及び施設利用の新規予約受付を中止したことで、利用者数は4,367人減少、開放回数は116回の減少している。 近隣の公民館やふれあいセンターと同様に生涯学習の場として利用する施設として、開放のあり方について検討していく。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度		
2	(事業名) 科学館運営費 【生涯学習課】 (事業目的) 科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資する。 (事業概要) 長崎市科学館の管理運営。 平成22年度より指定管理者である長崎ダイヤモンドスタッフ(株)による運営。	実施年度	継続			
		成果指標	利用者数			
		目標値	150,000 人	150,000 人		
		実績値	204,235 人	153,167 人		
		達成率	136.2 %	102.1 %		
		決算(見込)額	145,589,940 円	145,709,731 円		
		成果指標及び目標値の説明	科学館を利用することで、事業目的が達成されると考えられることから、利用者数を成果指標とした。 各年度の利用者数を基に、目標値を設定した。			
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	・展示室 30,618人 ・プラネタリウム 36,520人 ・全天周映画 4,439人 ・観望会 7,439人 ・教室等 10,269人 ・クラブ等 867人 ・講演会、イベント 114,083人	(取組実績)	・展示室 45,512人 ・プラネタリウム 29,340人 ・全天周映画 2,045人 ・観望会 5,739人 ・教室等 8,180人 ・クラブ等 600人 ・講演会、イベント 61,751人
			(成果・課題等)	展示室のリニューアル工事が行われ、展示室が閉鎖になることから、入館者の減少が懸念されたが、利用者減少防止策としてプラネタリウム投影の期間拡大、イベントの強化など様々な取組みを行った。その結果、展示室のリニューアルオープン効果も加わったこともあるが、利用者数は過去最高の20万人を超える人数となった。 今後も、利用者増となるよう、展示室を利用したイベントや今までにない特別展の開催など、何度来ても楽しめるような工夫の継続と科学館の設置目的に沿った運営に努める。	(成果・課題等)	夏に開催したイベントの入場者数が伸びなかったこと、新型コロナウイルス感染防止対策として令和2年3月4日から休館しており、春のイベントの開催を中止したことなどにより利用者数が減となったが、秋には科学館スタッフによる手作り企画展を開催し、企画展では過去最高の利用者数となった。 今後も、何度来ても楽しめるような工夫の継続と「数の成果」を追求するだけでなく、「質の成果」を追求する姿勢を持ち、科学館の設置目的に沿った運営に努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
3	<p>(事業名) 恐竜化石等研究調査費</p> <p>【恐竜博物館準備室】</p> <p>(事業目的) 白亜紀後期の三ツ瀬層(約8100万年前)の恐竜・翼竜化石が長崎市から発見され、今後も化石発見の可能性が高いと言われていることから、長崎における自然史の新しい学習資源とするため、化石の発掘・保存を行う。</p> <p>(事業概要) 福井県立恐竜博物館との共同研究事業として、毎年1～2週間程度の発掘調査を行い、福井県立恐竜博物館において、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定したのち、令和3年度に開館予定の(仮称)長崎恐竜博物館において保存、展示する。</p>	実施年度	平成24年度～令和3年度	
		成果指標	動物化石標本の数	
		目標値	30 点	30 点
		実績値	317 点	248 点
		達成率	1,056.7 %	826.7 %
		決算(見込)額	8,440,598 円	8,975,816 円
		成果指標及び目標値の説明	発掘により出土し、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定したのち、動物化石と判断された標本の数を成果指標とした。 目標値については、これまで見つかった動物化石をもとに、福井県立恐竜博物館の研究者と協議のうえ設定した。	
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 発掘期間 4月13日～19日 11月4日～8日 剖出・鑑定 4月～3月</p> <p>(成果・課題等) 前年度から引き続きクリーニング作業員の体制が確保できたことから、前年度までのストック分の鑑定が効率的に行われ、目標値を達成できた。剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。 発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、一部を科学館等に展示するなど、恐竜博物館への建設に向けた市民の機運を盛り上げるための検討が必要である。</p>	<p>(取組実績) 発掘期間 4月15日～23日 5月14日～22日 剖出・鑑定 4月～3月</p> <p>(成果・課題等) 前年度から引き続きクリーニング作業員の体制が確保できたことから、平成30年度発掘分までの鑑定が効率的に行われ、目標値を達成できた。剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。 発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、状況に応じて一般公開するなど、恐竜博物館の開館に向け市民の機運を盛り上げる取組みが必要である。</p>
4	<p>(事業名) 大型公民館講座開設費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各大型公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計(人)	
		目標値	51,800 人	52,300 人
		実績値	51,501 人	48,397 人
		達成率	99.4 %	92.5 %
		決算(見込)額	8,427,168 円	8,089,826 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成29年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成30年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・講座等 50,738人(2,166回) ・研修会等 763人(19回)</p> <p>(成果・課題等) 目標値にはわずかに達成しなかったが、受講者数は昨年度に比べ、2千人以上増加しており、各大型館が受講者を増やす工夫を行ったことが要因と考えられる。また、満足度も9割を超えており、引き続き学習に取り組める場と機会を提供したい。</p>	<p>(取組実績) ・講座等 47,754人(2,146回) ・研修会等 643人(12回)</p> <p>(成果・課題等) 目標値には達成しなかったが、年度の終盤に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった影響がある。講座に対する満足度は9割を超えているが、引き続き誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組みを行う必要がある。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
5	<p>(事業名) 地区公民館講座開設費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各地区公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計(人)	
		目標値	13,400 人	13,500 人
		実績値	11,464 人	10,994 人
		達成率	85.6 %	81.4 %
		決算(見込)額	1,541,290 円	1,160,240 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成29年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成30年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>・講座等 11,464人(625回) (ふれあいセンターへ移行した館を含む)</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>微増ではあるがふれあいセンターへ移行した地区公民館を含めれば、講座利用者は増えた。また、開催された講座に対する満足した人の割合は9割を超えていた。引き続き、学習に取り組める場と機会を提供したい。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>・講座等 10,994人(560回) (ふれあいセンターへ移行した館を含む)</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>講座利用者は、昨年に比べ微減しているが、年度の終盤に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった影響がある。公民館講座に対する満足度は9割を超えているが、引き続き、学習に取り組める場と機会を提供したい。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
6	<p>(事業名) 図書館を使った調べる学習コンクール事業</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進につなげていく。</p> <p>(事業概要) 図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	図書館を使った調べる学習コンクールへの応募者数	
		目標値	220 人	270 人
		実績値	262 人	168 人
		達成率	119.1 %	62.2 %
		決算(見込)額	29,644 円	24,156 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につなげていくため、応募者数を成果指標とした。</p> <p>過去3年間の応募者数の平均値の10%増となる、220人を目標値とした。</p>	<p>図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につなげていくため、応募者数を成果指標とした。</p> <p>過去3年間の応募者数の平均値の5%増となる、270人を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 応募者数 262人 (内訳) 小学生低学年:62人 小学生中学年:60人 小学生高学年:78人 中学生:62人</p> <p>(成果・課題等) 参加校は、小学校、中学校とも前年並みで、学校への周知が進んだ結果と思われる。 全国コンクールへ6点の作品を推薦したところ、すべてが佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。</p>	<p>(取組実績) 応募者数 168人 (内訳) 小学生低学年:43人 小学生中学年:71人 小学生高学年:40人 中学生:12人</p> <p>(成果・課題等) 参加校は、小学校は2校減ったものの、中学校は前年並みとなった。応募の内訳では、小学校中学年が増加したものの、他の学年では減少した。 学校への周知は定着したものの、同様の募集があり応募が分散したことから、応募者数が減少する結果となった。 全国コンクールへ5点の作品を推薦したところ、1点が優良賞、1点が奨励賞、3点が佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。</p>		

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図			
	市民が	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かしている。			
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子		

令和元年度の取組概要

- ①生涯学習における人材情報の把握
- ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録について、各公民館に公民館講座の講師登録について協力依頼を行った。また、公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供を行った。
- ②ボランティアの活用
- ・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、公民館支援ボランティアによる公民館講座での受付・案内、館外活動での受講者の誘導等の活動を実施した。
 - ・中央公民館では公民館支援ボランティアによる講座の企画、立案、実施に取り組んだ。
 - ・ファミリープログラムのファシリテーター認定研修会を県と共催し実施し、ファシリテーターを拡充している。
 - ・地域住民が自ら図書館等を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、図書の配架やクリッピング、イベントサポーター等の活動をボランティアにより実施した。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
生涯学習に関する人材 バンク登録者数	283人 (26年度)	↑ 目標値	289	293	297	301	305
		実績値	254	263	186	164	
		達成率	87.9%	89.8%	62.6%	54.5%	
地域の学習活動等への 支援者数	3,004人 (26年度)	↑ 目標値	3,120	3,240	3,360	3,480	3,600
		実績値	3,059	3,213	3,034	3,100	
		達成率	98.0%	99.2%	90.3%	89.1%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①生涯学習における人材情報の把握</p> <p>・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録者については、前年度から1人増の35人となった。</p>	<p>学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる人材の情報の提供を行う。</p>
<p>②ボランティアの活用</p> <p>・中央公民館においては、公民館支援ボランティアが企画・運営した講座(料理、手芸など)を平成30年度から継続して実施しており、活動者のモチベーションアップ、スキルアップにつながった。</p> <p>・ファミリープログラムファシリテーターの活動においては、主体的な活動内容に見直したところ、スキルアップ研修への意欲が高まる等の変化が見られた。</p>	<p>学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる魅力的なボランティア活動につながった。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①生涯学習における人材情報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度より22人(11.8%)減少した。 (平成30年度:186人 → 令和元年度:164人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクに登録することで、広域的な活動や一定の質を求められる面があることから、現に講座での学びを生かし、身近な公民館で地域の講師として活躍している方にとっても、登録に対するハードルが高くなっている。 ・生活環境の変化や転居等で活動できなくなったことや民間の団体の解散により、登録者数の減となった。
<p>②ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学習活動等へのボランティア延参加者数は、前年度より66人(2.2%)増加したものの、そのうち公民館支援ボランティアへの参加者数は94人(14.1%)減少し、科学館サイエンスサポーターへの参加者数は142人(44.4%)減少した。 地域の学習活動等へのボランティア延参加者数 (平成30年度:3,034人 → 令和元年度:3,100人) 公民館支援ボランティアへの参加者数 (平成30年度:671人 → 令和元年度:577人) 科学館サイエンスサポーターへの参加者数 (平成30年度:320人 → 令和元年度:178人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録後も活動しやすい場所がないこと、どのような活動を行い、どのような目的で仕事をすればよいのか見えてこないことが問題である。 ・地域の学習活動等へのボランティア活動に対する関心を喚起させることが十分ではない。 ・満足感、充実感が得られる活動内容となっていない。

今後の取組方針

- ①生涯学習における人材情報の把握
- ・「学びあいサポートバンク」への登録制度について、引き続き公民館等での周知に取り組むとともに、登録まではいかなくても身近な人材の情報把握や情報共有に努める。
 - ・ファミリープログラムファシリテーターについて、引き続き県と連携して研修会を開催するなど登録しやすい環境づくりに努める。
- ②ボランティアの活用
- ・ボランティアの登録者数を増加させるため、活動内容の紹介を随時行うとともに、活動しているボランティアが望んでいる活動内容を把握し、魅力的な活動となるように努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	<p>(事業名) 生涯学習に関する人材情報の充実</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 講座や仕事などで習得した知識や経験、技能を有する人材を市民の学習活動に活かすことにより、市民が学び合い、支えあい、いきいきと暮らすまちづくりに資する。</p> <p>(事業概要) 自発的な意思によって学習活動等の支援を希望する個人又は団体の情報について、承諾された方については県のホームページで公表するとともに、講師になりうる人材の把握につとめ、市役所における講師人材情報提供の窓口としての役割を果たす。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	登録者数	
		目標値	297 人	301 人
		実績値	186 人	164 人
		達成率	62.6 %	54.5 %
		決算(見込)額	0 円	0 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。</p> <p>基準値283人(平成26年度)から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、平成30年度は基準値の約5%増である297人を目標値とした。</p>	<p>能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。</p> <p>基準値283人(平成26年度)から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、令和元年度は基準値の約7%増である301人を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ボランティア活動の範囲、内容を見直すことで魅力的なボランティア活動につなげることができた。</p> <p>(成果・課題等) ○登録者数(市役所内の関係課が把握する人材) 186人 ・公民館等ボランティア 45人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 36人 ・学校・地域支援のための指導者・講師 40人 ・市まなびあいサポートバンク 34人 ・ファミリープログラムファシリテーター 31人</p> <p>生活環境の変化や転居等で活動できなくなった理由により、登録者数の減となった。生涯学習に関する人材バンク登録についての周知と登録しやすい環境づくりに継続して取り組む必要がある。</p>	<p>(取組実績) ファミリープログラムのファシリテーター認定研修会を県と共催し、登録者の増加に努めた。</p> <p>(成果・課題等) ○登録者数(市役所内の関係課が把握する人材) 164人 ・公民館等ボランティア 74人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 21人 ・市まなびあいサポートバンク 35人 ・ファミリープログラムファシリテーター 34人</p> <p>生活環境の変化や転居等で活動できなくなったことや民間の団体の解散により、登録者数の減となった。生涯学習に関する人材バンク登録についての周知と登録しやすい環境づくりに継続して取り組む必要がある。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
2	<p>(事業名) 公民館支援ボランティアの活用</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 地域住民の活動拠点となる公民館において、住民参画型の公民館活動のより一層の充実と発展を図る。 地域住民のボランティア意識の高揚及び地域課題解決のための活動に参加・参画できる仕組みづくりを行う。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した方が次の活動を行う。 ・公民館講座での受付・案内 ・館外活動での受講者の誘導、安全確保 ・講座等の企画・運営 ・各種イベントの補助(サポート) ・公民館の環境整備、広報の補助</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数延人数	
		目標値	900 人	900 人
		実績値	671 人	577 人
		達成率	74.6 %	64.1 %
		決算(見込)額	199,890 円	194,380 円
		成果指標及び目標値の説明	公民館講座の企画運営に参画するボランティアの数を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動内容をもとに、実施可能人数を推定し毎年900人を目標値とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	(取組実績)
			(成果・課題等)	(成果・課題等)
		3	<p>(事業名) 図書館ボランティアの活用</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装備や配架 ※図書の装備とは、図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること。 ・新聞のクリッピング ・図書館等での読み聞かせ等</p>	実施年度
成果指標	参加者数			
目標値	1,590 人			1,690 人
実績値	1,706 人			2,054 人
達成率	107.3 %			121.5 %
決算(見込)額	41,650 円			47,250 円
成果指標及び目標値の説明	ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数(延人数)を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値とした。			
取組実績、成果・課題等	(取組実績)			(取組実績)
	(成果・課題等)			(成果・課題等)